（別紙4-1）

NPO法人　福祉サービス評価機構Kネット

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0170200455		
法人名	医療法人社団　豊生会		
事業所名	グループホームすぎの子　3階		
所在地	札幌市東区東苗穂3条1丁目13番地29号		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	令和5年11月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170200455-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4　高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ダイバージョナルセラピーの考えを取り入れ事業所理念である「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」を実践。ケア記録ではその方の思いをくみ取る記録を行い、日々の活動や行事、ケア計画に反映し実践しております。また、法人各事業所とも連携体制があり、医療はもちろんのこと、リハビリ、栄養、口腔ケアなどの専門職との連携を行い、最期までその人らしく、楽しみがあり穏かで安心して過ごせるように日々関わらせて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は東苗穂の住宅街の一角にあり、円形窓が印象的な3階建て建物に27名の利用者が生活している。玄関フロアには、写真と好きな事を記した職員紹介が掲示され、訪問の家族や外部者を迎えている。対面開催を軌道に乗せた運営推進会議は、コロナ禍での書面報告でも、地域包括職員や町内会長等から意見を受け、運営の健全化につなげている。控えてきた地域交流は、5類移行を機に徐々に緩和方向にあり、系列老健施設主催の祭りに参加し、以前のような地域に密着した交流の再開を進めている。事業所の理念の実践は、ダイバージョナルセラピーを手法にして、感染症などによる周辺環境にも柔軟に対応し、ぶれないケアに取り組んでいる。ここ数年は室内レク活動に力を入れ、季節行事にはリクエスト料理や手作りおやつ、屋内いちご狩りなど、趣向を凝らして利用者の笑顔を引き出している。また、看取りケアをはじめ、訪問診療やリハビリなど、法人のスケールメリットによる専門性を取り入れ、健康面からも利用者を支えている。それぞれの人生を生き抜いてきた利用者の今の気持ちや希望を知り、寄り添った個別ケアのための介護計画立案や記録用紙の工夫も特筆される。開設して21年、外国人実習生もスタッフに加え、文化の違いを超えて共に学び合う雰囲気を育んでいる事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項　目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」を理念とし、理念の共有の為玄関に掲示し、ケアの実践に繋げている。	事業所理念に基づく年度の目標は、事業所全体でふり返り、話し合いを通して3項目の新たな方針を掲げている。特に利用者主体のダイバージョナルセラピーは、理念を実践するためのケア手法として日々実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の商店やスーパーに出掛けたり、資源回収などの協力を行っている他、運営推進会議を開催したり、同法人開催の地域の方も参加できる催しに参加し交流をしている。	感染症5類移行により、今後の地域交流について検討している。回覧板で地域の大まかな情報を入手し、近隣住民とも立ち話などをして関わっている。また、3年ぶりに開催した系列老健施設の祭りに利用者と参加し、住民と交流する機会を持つことができた。	
3	／	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で健康教室やワクワク広場などの地域の方々も参加できる催し物を開催し、外の掲示板を利用し地域の方にも参加を呼びかけたりホームの入居者も一緒に参加することで認知症の人と触れ合う機会を作っている。	／	／
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行いご家族様や町内会長、地域包括支援センター、管理者等が参加し、行事報告や利用者様の状況、意見交換等を行いサービスの向上に活かしている。	コロナ禍では、報告事項を書面にして推進委員に送付し、意見等の聞き取りに努めてきた。対面開催は今年度2回目の会議から取り入れ、包括支援センターや町内会、家族等が参加している。構成員から意見や地域情報を受け、運営に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は連絡会議に出席し意見交換を行っている。	管理者は、必要に応じて行政担当部署と電話やメール等でコンタクトを取っている。疑問の案件があれば相談、指示を得て、円滑な運営に努めている。保護費関係や介護保険認定更新業務でも担当者と情報交換や利用者の状況を共有し、連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に資料を作成して書面やZOOMを活用しながら研修会を行い、職員全員の理解を深めて身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束及び虐待に関する委員会や研修会の内容は全職員に理解を求め、共通認識として浸透を図っている。拘束や抑圧感のないケアの実践に取り組んでおり、センサー等も使用目的を明確にして、毎回適正化委員会の中で評価を行っている。	
7	／	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内外の勉強会や研修会に参加し、勉強会をスタッフ全員で行い学び、虐待防止に努めている。	／	／

自己評価	外部評価	項　目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	サービスなどの必要性について入居者様が安心して活用していけるように話し合いを行い支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約は管理者がご家族様に直接口頭や文章で理解、納得して頂けるまで見学や説明を行い、同意の元で契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見、要望があればすぐに話し合い,フロア、並びに事業所全体の質の向上に努めている。	電話連絡や面会の機会を捉えて、家族の意向を聞くようにしている。生活の様子が伝わるよう、写真を多用した隔月の通信と、毎月の請求書と一緒に写真や担当職員のコメントを送付している。意見等は多くないが、出された場合は即時対応を心掛けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行われているフロア会議や勉強会、リーダー会議や業務改善委員会等を開催し、意見交換を行い、運営の関する職員の意見や提案を反映できるようにしている。	職員は、フロア会議や各委員会会議の中で積極的に意見を出し合い、運営やケアの適正化を担っている。管理者は、随時や定期の面談で職員個々と関わり、コロナ禍でのストレス等にも配慮している。休日や研修等の希望に沿い、働きやすい環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行いスタッフ一人一人の状況に意見を聞いたり相談に乗ってくれている。職員の話をよく聞いて働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人を把握し助言し法人内外の研修の促しや参加の機会を確保できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH研修会も設けられており、その場をうまく活用して情報交換をしながらサービスの質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活習慣・疾患・内服していた薬等状況を把握し、不安や要望を確認しながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や職員が家族等の不安な事、困っている事に耳を傾けながら、ケアの方向性や支援内容の確認、理解、協力が得られる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を確認し、面談や他事業所等からの情報も得ながら内容を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の主体性を尊重しご自分の出来る限りの事は行きながら職員は介助に入る際は必ず声を掛けi意向を確認しながら関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には日頃から、本人の日常の様子などを伝えている。希望・要望の確認をしながらともに支えていく関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の希望があれば故郷に出掛けたり、馴染みの店や土地に出掛けている。	従来の交流環境に戻す方針であり、家族の協力も得て、個別に自宅周辺のドライブなどへの外出支援に動き出している。日常的に、利用者個々の馴染みの場所などを話題にし、また、利用者は顔馴染みになっている訪問理・美容で好みの髪形にしてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士がコミュニケーションを取れる　様に、行事やレクリエーション・お手伝いなどを提供し　、支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様の御家族が来られ、お礼に来られたり、その後の状況をお知らせ下さるなど一部では、関係を築けた。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を把握し、前向きに取り組みを行っている。意向を把握しきれない場合でもご家族からの情報を得たり、過去の生活歴を参考にしながらスタッフ間で話し合いし日々のケアに努めている。	利用者本人の思いや暮らし方の希望を重視し、職員間の共有として、表出された言葉等を記録している。言葉掛けを多くし、意識的な観察や関わりから職員其々の気づきを持ち寄り、家族の情報も加え多面的に話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族や関係者から情報の聞き取りを行っている。本人の言動を観察しながら記録に残しスタッフ間での情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調管理に努め、本人の様子を観察しながら、記録、申し送りを行い現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を確認し、毎月のカンファレンスや会議を利用し話し合い、介護計画の立案や変更を行っている。	介護計画の見直しの際は、主治医やリハビリ等の専門職と連携し、カンファレンスを通して、利用者、家族の意向を踏まえたニーズを掲げ、個別の計画を作成している。支援目標の実践は日々の介護記録で確認し、3ヵ月ごとや状態の変化時の計画立案に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりの中で本人の言動に着目し記録に残すようにしている。申し送りノートを活用しスタッフ間での情報共有を行ってケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて専門医療機関の受診介助を行っている。法人内の専門職との相談できる体制や設備の利用、行事等の参加を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や外気浴、外出などの介助を行っている。地域や法人の他事業所で行われる行事に参加を通じて地域の資源を活用し豊かで安全な暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する医療機関を大切にしている。受診する際は情報提供書を作成し適切な医療が受けられるように支援している。	本人、家族の希望を優先した受診支援であり、協力医療機関からは月2回、歯科は希望や必要時に訪問診療を受けている。他の専門科外来は家族と職員が協力している。夜間や休日等は、法人内在宅ネットワークの医療機関で相談が可能になっている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活に変化があった際には訪問看護師に伝えスタッフ間でも情報を共有し適切な受診を受けれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状の把握ができるように関係先との情報交換や相談を行いながら、早期に退院できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には本人や家族の意向を確認している他、体調が悪化したり、急変した時には主治医とも話し合いをし終末期のその人らしいあり方を本人を中心に家族や医療機関、ホームのスタッフの共通の認識とし支援に取り組んでいる。	重度化や終末期のあり方は、契約時に説明とともに同意を得ている。入居早期は事業所での終末を希望する方が多いが、重篤状態では家族の迷いや不安に寄り添って話し合い、今後の方針を確認している。看取り支援の経験が多く、主治医や管理者による職員へのサポート体制も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED操作訓練を行っている。急変時の対応マニュアルを作成し対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会も参加協力があり年に2回避難訓練を実施している。	火災や地震、浸水時の訓練については、シミュレーションや実践訓練を計画し、階段昇降やトイレ介助時など困難場面を想定し実施している。次回訓練は寒冷期、夜間想定の取り組みを予定している。各種の備蓄品等の用意や業務継続計画の策定などで、非常災害時に備えている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重を重んじ誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応をしている。個人情報が含まれる記録物は持ち出さない様指導している。	職員は接遇研修を受講し、利用者への適切な関わり方を学んでいる。利用者本人が大切にしていることやプライバシーを尊重し、言葉掛けや対応に努めている。個人記録等の管理も慎重に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り本人の希望を表せるようにかかわりながら自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にし食事や入浴、外出など希望に沿った生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみに気を付け、その方の好みを把握しながらお洒落やお化粧を楽しめるように支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	希望があればメニューに取り入れたり、食事作りを一緒に行い、食事への関心、楽しみを感じて頂けるよう取り組んでいる。	副菜のみ配食を利用し、代替品、ソフト食などで、個別の好みや身体状況に対応している。誕生日や季節の行事ではリクエストに応え、作る楽しさも取り入れ、一緒に大福やホットサンドなどを作り、時には利用者に好評な生寿司なども取り寄せている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の召し上がる量を把握したり、管理栄養士に相談し一日に必要な摂取量が不足することの無い様支援、対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れ、臭いを防止するため、毎食後、口腔の状態、本人の力に合わせたケアを行っている。必要があれば歯科の往診を受け口腔内のトラブルに応じた支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が少なくなるよう排泄間隔を確認しながらトイレでの排泄を試みている。出来る所は自分で行えるよう自立支援となるよう対応している。	排泄の失敗や不快感、衛生用品の使用量が軽減できるよう、個別のパターンを参考に排泄支援を行っている。心身の状態や機能に応じ、場合によってはベッド上の介助も含めて、できる限り本人の負担が軽く、自立を支える方法で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食材を摂ったり、内服薬の調整や、腹部のマッサージを行うなどの対応に取り組み、普段から体調や様子を確認し、予防に取り組む。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望を聞き、バイタル測定をした上で体調に合わせて入浴して頂いている。	職員配置を考慮して同性による介助の希望に応えるほか、午前、午後の時間希望や湯量など、心地よく寛いで入浴できる環境を作っている。できる事を大切にした支援であり、拒む心情に配慮して無理強いをせず、週2回ほどの入浴を支援している。数種の入浴剤で楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況や習慣に合わせて自由に休息をとって頂いている。室温や寝具の調節が難しい方にも気を配り心地良く休んで頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示で一人一人の服薬支援、症状の経過観察や確認を行っている。個別の服薬介助の方法を周知し統一した介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の習慣、生活歴を知り、その方の力を活かした役割を支援し、楽しみや喜び、やりがいを感じて頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩や近隣への買い物の他、外出行事を企画して家族にも参加を呼び掛けている。	天気の良い時期は、周辺の散歩や畑の水遣り、玄関先のベンチで日光浴をしている。行楽地への行事的なドライブや個別希望による買い物支援、家族の協力による外出など、状況を見極めながら、少しづつ外出の機会作りに努めている。	コロナ禍では、屋内生活が日常となり、利用者の外出意欲の低下が課題となっている。事業所では、心身の機能維持のためにも、戸外に出ることが心地よく気分転換になることを感じてもらいたいと考えており、その実行に期待したい。
50	/	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理をしている利用者は少ないが一人一人の希望に応じて買い物に行き、出来る限り自分で会計が出来る様に支援している。	/	/
51	/	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話や手紙などの支援を行っている。	/	/
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のフロアーにて季節の花を飾ったり、四季に合わせたフロアの飾りつけを入居者と一緒に行っている。音や臭いなどに注意した環境作りをしている。	大きな窓から柔らかな陽が射しこむリビングは、安全面を検討し、利用者の状況に沿って食卓やソファー等を設置している。可能な拭き掃除などは利用者と行って生活の場作りを共にし、温･湿度や換気、気になる刺激にも配慮している。昔懐かしい家具や調度品、利用者の写真や皆で制作した季節の装飾が施され、安らぎの空間になっている。	
53	/	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で静かに過ごせる空間も保ちつつ、他者との談話を楽しめる様にスタッフも介入している。	/	/
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切なものを部屋に飾ったり、家族の写真を貼ったりその方にとって居心地がいいよう工夫している。	やや広めの居室にベッドが備えられ、入居時には使い慣れた家具や生活用品、テレビなどが持参されている。利用者は、好きなテレビを見たりCDを聞いたりと自由に過ごしているが、希望や心身の状況を踏まえて落ち着いて安全な居室環境に配慮している。	
55	/	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具やベットを安全に配置し、車椅子や歩行器でも移動しやすい環境作りをしている。また転倒のリスクがある入居者を見守る事ができる環境作りをしている。	/	/